



秋桜の咲く目

—— コスモス ——

平成25年度制作

制作のねらい

「違い」を認めないことによって、差別は始まるといえます。人はそれぞれ違うものなのに、違うというだけでその人を排除してしまう傾向が人間にはあります。

違いを理解し、認め合うことが大切であることはもちろん、本当にすべての人の人権が尊重される社会とは、それぞれの違いを活かすことのできる社会だといえるのではないのでしょうか。

この映画は、「目に見えにくい違い」の一つとして発達障害をとりあげています。発達障害のある人の生きづらさや痛みを真摯に伝えるとともに、「違い」が生み出すプラスのエネルギーを美しく群生するコスモスの花々と重ね、「ともに生きることの喜び」を伝えるための教材として制作いたしました。



あらすじ

特別養護老人ホーム「向陽園」の主任介護士として働く大谷ちひろは、新しく入った介護士中嶋直也に期待するが、直也は空気の読めない発言をしたり、指示が伝わらなかったり、コミュニケーションが取りづらい。ちひろはストレスを感じながらも、直也を育てるべく奮闘する。

そんな中、直也が入居者の元大学教授、乾一成を連れて外出したところ、金山川で乾が倒れて意識不明になってしまう。知らせを受けて病院に駆けつけたちひろは、パニックを起こした直也に、介護士失格だと激しく叱責する。

翌日から直也は欠勤。直也の母が退職願を持って「向陽園」を訪れ、直也がアスペルガー症候群であることを告白する。いったん退職願を受理したものの、ちひろは直也をこのまま辞めさせていいものか悩む。そして、ちひろは直也が乾を金山川に連れていった理由を聞くため、入院中の乾を訪ねた。

乾は直也の「違い」を理解した上で、彼の良さを語り、亡き妻・薫が好きだった秋桜を見せるために、直也が乾を金山川まで連れて行ってくれたことを打ち明けた。

「違い」を受け入れることの大切さに気づいたちひろは、退院した乾とともに直也を迎えに行く。ちひろはこれまでの無理解を詫言、直也も初めて自分が人と違うことでの生きづらさを語るのだった。直也は、向陽園で再び働くことに。

秋桜の咲く日、金山川のほとりには笑い合うちひろと直也と乾の姿があった。



■他の人から見て『目に見える違い』と『目に見えにくい違い』

人には、それぞれ「違い」があります。

『目に見える違い』としては、「年齢」や「性別」など、他の人が見て、すぐわかるものがあります。その他にも、身体障害の中でも肢体不自由などの障害、白人、黒人などの肌の色による違いは、『目に見える違い』といえるでしょう。これらの目に見える違いは、周囲が容易に認識し、配慮することができます。

一方、『目に見えにくい違い』としては、考え方や感じ方の違いがあげられます。自分が『普通』『常識』と思い込んでいることも、すべての人に共通するわけではありません。

また、国籍や宗教の違い、性的指向なども外見からはわかりにくい場合があります。

さらに、障害の中でも、発達障害、精神障害などは、他の人からはわかりにくいいため、周囲の理解やサポートが得られないことがあります。

いずれの「違い」も、周囲の理解が得られなければ、生きづらさを抱えたまま社会で生活しなければなりません。

差別はいけないとわかっていても、『目に見えにくい違い』については、わからなかったり、知らなかったりするため、誤解や偏見、差別につながってしまうことも多いのではないのでしょうか。

今回の映画では、この『目に見えにくい違い』に焦点をあてて、その中のひとつとして、発達障害（アスペルガー症候群）をとりあげています。





発達障害とは

発達障害とは、一般的に乳児期から幼児期にかけて、様々な原因で発達の遅れなどの障害がみられるものをいいます。本人の怠慢や家族のしつけ、環境などが原因ではなく、基本的に脳の機能障害から起こります。発達障害者支援法（2005年施行）では「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの……」と定義されています。

自閉症スペクトラム

「自閉症」「アスペルガー症候群」などの各疾患をいい、自閉症スペクトラムの連続体の1要素として捉えたもののことをいいます。発達障害は、この図のように連続していたり、重なり合ったりして区切りが明確でないのが特徴です。

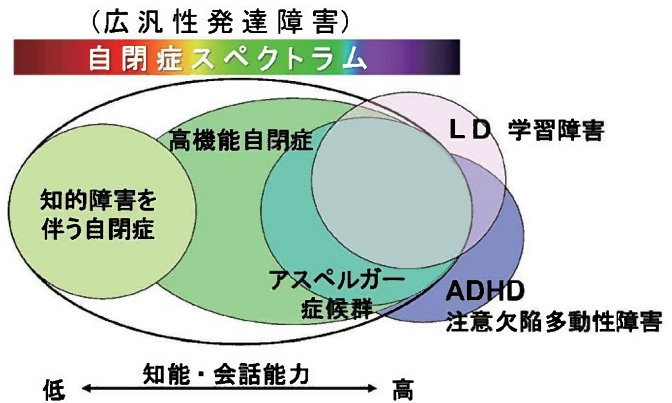


図 発達障害の関係図

これらの障害は、主に3つの特徴があり、これを「3つの組の障害」と呼びます。

(1) 社会性の障害

他者と共感しにくい、相手の気持ちを察するのが苦手。TPOに合わせて、どのように振る舞うべきか判断できない。

(2) コミュニケーションの障害

曖昧な表現や同時にいくつもの指示をされると、混乱する。皮肉やたとえ話などが理解できず、言葉通りに受け取ってしまう。

(3) 想像力の乏しさとこだわり

独自のルールやこだわりがあり、興味や活動の範囲が狭い。日課や習慣などの変更に対して抵抗を示す。



直也の障害である「アスペルガー症候群」は、発達障害の中に属し、幼児期に言語発達の遅れはないが、「表情や身振り、声の抑揚、姿勢などが独特」、「親しい友人関係を築けない」、「慣習的な暗黙のルールが分からない」、「会話で、冗談や比喩、皮肉が分からない」などのような特徴があります。

この他にも、聴覚や視覚などの感覚異常が見られることもあります。直也には「3つの組の障害」のほか、さまざまな音が同じような騒がしさで耳に入ってくる聴覚の感覚異常があります。

その対策として、直也は音を遮るヘッドフォンを着用しています。一方、散乱した乾の本を元通りに直したり、パズルのピースを一目見て正しい場所を当てたりする優れた記憶力を発揮する一面もあります。

アスペルガー症候群は知的な遅れがないことが多いため、子どもの時にはわからず、大人になってから判明することも少なくありません。また、症状の出方には個人差があります。



■相談窓口：北九州市発達障害者支援センター「つばさ」

「つばさ」は、北九州市内にお住まいの発達障害のある方々とそのご家族や関わるすべての人々のための支援センターです。

<http://www.tsubasa.kitaq-src.jp/>

北九州市小倉南区春ヶ丘10-2 北九州市立総合療育センター内（西棟 2F）

TEL 093-922-5523（直通） FAX 093-922-5523